

65周年記念山行 丹沢大縦走その1

(記録) 福澤 卓三

期間

平成26年4月26日(土)～27日(日)

参加メンバー

山本 彰、金井 良一、福澤 卓三、鈴木 輝明、大和 義孝

コースタイム

4月26日 宮ヶ瀬土山峠 8:30(発)～辺室山 9:40(着)～物見峠
10:40(着)～三峰山 12:20(着)～大山 15:35(着) 大和さん下山～
ヤビツ峠 17:00(着)～菩提峠 19:00～三ノ塔避難小屋 20:30(着)
歩行時間 12:00

4月27日 三ノ塔避難小屋 3:50(発)～行者ヶ岳 4:50(着)
～塔ノ岳 6:30(着)～鍋割山 8:00(着)～林道秦野峠 14:00(着)
～高松山 16:30(着)～高松山入口 19:00(着)
歩行時間 15:10分

4月26日

小田急の本厚木駅に7時半全員集合。7時50分発の宮ヶ瀬行きに乗り土山峠に到着。記念撮影、ヒル除け対策をして笑顔で出発。(この時は地図を見て単純にルートが長いと思っていたが考えが甘すぎた。)登り口は急だが森林帯の中を辺室山までは穏やかな登りである。

天気はいいが暑くないので助かる。本日大山から下山する大和先輩を三ノ塔までみんなで連れて行ってしまおうなんて軽口をたたきながら、おだやかな樹林帯の稜線を物見峠・三峰山を順調に通過。



辺室山



物見峠

アプローチが長いのか、登山者には修行中のお坊さんと数人しかあわなかった。きれいに咲いた花にこころをいやされながら、上り下りを繰り返して、大山が見える唐沢峠につき、そこからなだらかな道を進み平地に出る。花が咲き良いところである。最後に突き上げる稜線の先にあるピークはかなり遠くに見える。とりあえず大山めざしてひとしごき。



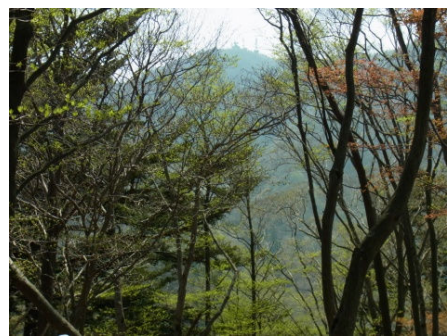
大山と七沢のジャンクション



唐沢峠



頂上直下の稜線



最後の登り（鉄塔がみえる）

阿夫利神社本社についた時にはほっとした。縦走でもしない限り大山には来ないのでみんなはじめてである。記念写真を撮りひとやすみ。ここからケーブルカーで下る大和さんにコーラをごちそうになった。体中にしみわたるようで、ものすごくうまかった。少ない時間であるが一緒に登ってきたので、仲間意識がでてなんとなくさみしい気分になる。このころから今日は遅くまで行動しなければならない予感がしてきた。

ここから想像以上の高低差を、登りなおすことを考えると憂鬱になるほど下り、ヤビツ峠についた。水を補給して林道ではなく、登山道を律儀に通って菩提峠についた。小休止して出発の頃には、キャップライトがないと真っ暗で、登山道もみえないくらいの時間になっていた。疲れと暗闇のせい、二の塔にも長く感じて、なかなかつかない。星空も街の明かりもきれいであるがそれどころではない。「もう少しです」と何回も言う山本に、「お前の言うことは信じない」などと八つ当たりをする自分が情けない。ようやく三の塔の避難小屋に付いたときにはホッとした。鈴木が持ち上げたビールが結構冷えていてうまいこと。4人ののどをなごませた。小屋泊まりなどほとんどしないので、屋根があるだけでうれしくなる。快適で楽しい夕食（かつカレー）をして、小屋のベンチにマットをしき、シュラフに入り快適な夜をすごした。



ヤビツ峠



菩提峠入口

4月27日

合宿でもないのに2時半起床。山本得意の手の込んだうどんを食べ、4時前にキャップライトをつけて元気に出発。三の塔から過去に何回も通っ

た登山道だが、こんなに下るのかと思うほど下り、また登りなおして、鳥尾山・行者岳・大日岳を越して塔ノ岳についた。

天気も良く、富士山が大きくきれいに見えた



塔ノ岳山頂



塔ノ岳山頂

ここから鍋割山に向かったが、身近な山のイメージがあり、皆もっと近いと思っていたがかなり遠かった。登山道は整備され気持ちのよい縦走路である。頂上も広くてよい。



金井代表 (鍋割山)



山本リーダー (鍋割山)



鈴木 (鍋割山)

しかし、雨山峠までの下りは急峻でかなりの高低差を下る。鎖場も長くて悪いのでびっくりした。本日もアップダウンがあり消耗した。雨山・檜岳・伊勢沢の頭と行くうちに途中山桜が満開できれいに咲いていて余裕はなかったがカメラをだして写真を撮った。しかし大雪のせか何本か根こそぎ倒れていた。手入れをすればまだ何年も咲くだろうと思われる木ばかりなので残念である。人もあまりこないルートなのかもしれないが心が痛む。



満開に咲いた山桜



秦野峠

伊勢沢の頭から秦野峠までの下りが長く、急でよくルートを開いたものだと感心しながらつま先の痛みと長い下りにストレスを感じながら秦野峠に付いたが、林道秦野峠までの500mが本当につらかった。林道にでてホッとしたが、ここから高松山まで登り、山北まで4時間の半日仕事が残っている。今は14時半ふだんの山行であれば下山時刻である。

皆無口になるが、やると決めたらやるのが男。計画通りにやらないと後で後悔する。最後の頑張りで登る。途中からおだやかな登りになり助かるが皆相当疲労している。しかし高松山は素晴らしい頂上であった。広く見晴らしも良く、到着した喜びで元気回復。



高松山頂上



高松山頂上

ここから林道に降りるまでが長く消耗し、林道に降りホッとしたが、疲労と足の痛さでつらい。下りでつま先をやられたらしい。高松山入り口についた時にはバス停まで行く気力もなくタクシーにきてもらった。乗った時にはホッとした。